

(別記様式)

令和7年度 京都府立福知山高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<スクール・ミッション> 附属中学校を併置し、文理科学科・普通科を設置する高校として、地域社会や国際社会の課題解決を目指す探究活動やキャリア教育を通して、質の高い学力を育み、持続可能な社会の創出を担うリーダーとして貢献できる人材を育成する。 <スクール・ポリシー> ◎育成を目指す資質能力に関する方針 「個を活かし、公に生きる人間」の育成 「グローバルに活躍する人間」の育成 これらの推進のため特に、 ・5K力（「感じる力」「考える力」「行動する力」「向上する力」「関わる力」） ・いつの時代においても生き抜くことができる力（汎用的能力）を身に付け、自らの「みらい」を創造する力の育成に努める。 ◎教育課程の編成及び実施に関する方針 ・大学・企業・地域との連携など高度な教育活動を通じて、質の高い学力と志を育成する。 ・本校独自の探究活動「みらい学（文理科学）」・「みらい考（普通科）」をはじめ、すべての教育活動において、「汎用的能力」を育成する。 ◎入学者の受入れに関する方針 ・自らの目標達成や進路実現に向けて強い意志を持ち、全力で取り組める生徒 ・社会の課題に関心を持ち、解決に向けて主体的・意欲的に取り組もうとする生徒 ・勉学や部活動、学校行事等に進んで挑戦しようとする生徒 ・自他を尊重し、多様性を認め、他者と協働して物事に取り組める生徒	（成果） 1 京都大学3名、大阪大学3名、神戸大学5名をはじめ国公立大学に109名、関関同立に延べ99名など私立大学にも多数合格した。また、京都府立医科大学や筑波大学等の医学部医学科をはじめ、国公立大学や私立大学の医学部医学科や薬学部にも多くが現役合格した。就職においては自衛隊航空学生に合格するなど多様な進路指導の実績を残すことができた。 2 「F3！」（高校全日制・定時制、附属中合同の探究活動報告会）を実施する等、探究活動を授業だけでなくキャリアプログラムと融合させて深い学びを実践し、地域連携やキャリア教育に繋げることができた。 3 「スーパーサイエンスネットワーク京都」校として理数系の探究活動を大学等と連携しながら質の高い研究をすすめ、大学での発表会で最優秀賞を受賞する等、研究をより深めることができた。 4 海外高校生との交流や福高 GLP をはじめとする国際理解教育の機会を充実させ、イノベティブなグローバル人材育成を図った。 5 部活動加入率は81%で文武両道を実践する者も多く、近畿大会や全国大会で活躍をする生徒もあった。 6 人権学習やHRでの取組をはじめとする授業等を通じて、自他を敬愛する心や社会貢献の精神を育み、共生社会に必要な力を育成することができた。 7 進路指導では、授業を柱に面接指導、小論文指導、面談、にじゼミを含む講習等、教職員が連携しながら取り組むことで成果を残すことができた。 （課題） 1 「F3！」を初めとする探究活動の深化のために地域や小学校、中学校との更なる連携が必要である。 2 生徒たちの活躍する姿を積極的に発信することはできたが、生徒募集につなげることができなかった。 3 DX化を促進し豊かな教育を行うために深い学びの充実と教職員の働き方改革を進めていくべきである。 4 防災意識を高め、学校が生徒及び教職員にとって安心安全な教育の場であり続けるように努めていく。	1 学力の向上と希望進路の実現 (1) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、確かな学力を育む。 (2) 生徒たちが豊かな教育を受けることができるように学校のDX化をすすめる。 (3) 基礎基本の定着と目標設定により主体的に学習に向かう姿勢を育み、生徒個々の多様な希望進路の実現を目指す。 2 特色ある取組の充実 (1) 普通科「みらい考」や文理科学科「みらい学」をより一層充実させ、社会や地域の課題を自分事として捉え、課題解決に向けて行動する姿勢を養う。 (2) 「スーパーサイエンスネットワーク京都」校として、探究活動を進化させ理数系教育の更なる充実を図る。 (3) 福高 GLP や様々な国際交流等をとおして国際理解教育の機会を充実させグローバル人材の育成を図る。 (4) 医学進学・教員養成・国際理解・地域連携の各プログラムをはじめとするキャリア教育を充実させ、社会に貢献できる人材を育成する。 3 豊かな心を育む教育の実現 (1) 人権意識を高め自他を敬愛する心や命を大切にする心、公共性や社会貢献の精神を育み、共生社会に必要な力を養う。 (2) 部活動やボランティア活動等をとおして、豊かな人間性を養う。 4 学校組織の改善と見直し 教職員の資質・能力及び学校全体の教育力向上のため、中高各分掌・教科の在り方や連携を含めた業務改善と効率化を図る。 5 適正な学校運営と安心・安全な学校づくり 全教職員が危機管理意識や防災意識を持ち適正な学校運営にあたる。学校防災や感染症対応等、生徒・保護者・教職員が共通認識を持ち、危機管理体制を確立し、安心・安全な学校を作る。 6 家庭・地域・関係機関との連携の強化 (1) 積極的な家庭連絡、必要に応じた家庭訪問を行うなど、家庭との連携を密にして信頼関係を築く。 (2) 地域連携やボランティア活動等をとおして、地域や社会の一員であることをことを自覚させ、使命感を持たせる。 7 中高一貫教育の推進 中高6年間を見据えて資質・能力を育成するとともに、探究活動をはじめとする授業や様々な取組での連携をとおして中高一貫教育校のよさを活かして教育活動の充実を推進する。

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具 体 的 方 策	評価		成果と課題
組織・運営	これからの社会で必要とされる資質・能力育成のための「主体的・対話的で深い学び」の実現及び理数教育の充実を図るとともに、ＩＣＴの効果的活用の組織的な取組を推進する。	教育活動全般を通して「主体的・対話的で深い学び」を実践するとともに、みらい考やみらい学をはじめとする科学的な探究活動を通じて理数教育の充実を図る。また、ＤＸハイスクール事業を推進し、ＩＣＴの効果的な活用を図る。			
	生徒の確かな学力を育むための教職員の資質・能力の向上と、学校全体の教育力向上のために、中高の連携及び分掌や教科等の連携を密にし、教育活動に取り組む。	学習や生徒指導、学校運営等において、附属中を含む各教科や各分掌、個人間で連携を深めることで、教育活動及び業務の改善を図るとともに、個々の教職員の資質・能力の向上に繋げる。			
	学校の魅力を高めるとともに、その魅力を生徒・保護者が実感できるものとする。また、その魅力を外部に効果的に発信する。	授業や課外活動、特色ある取組を更に充実させ、生徒・保護者が充実感を感じられるものとする。また、その魅力を効果的に発信していく。			
教務部	学力向上に向け、授業改善と主体的な学習態度の育成に努める。	学力向上のための授業改善を目指し、年２回公開授業週間を設定する。その中で指導実践を共有し、生徒の学習意欲を高める指導の工夫改善につなげる。			
	教育課程実施に関わり、引き続き評価の在り方、ＩＣＴ活用に向けての研修を進める。	学習指導の改善が生徒の学習意欲・学力向上に繋がるよう、校内での研修の機会を設け、各教科間や分掌、学校全体で教育力向上を目指す。			
	個に応じた指導を大切にし、単位不認定をなくす。	丁寧な学習方法の指導や個に応じた指導を進め、成績不振による単位不認定者をなくす。長期休業中の補充授業をより効果的な取組に改善する。			
生徒指導部	安定した学校生活が進路実現につながるという観点に立ち、特に時間管理（遅刻指導）と社会的マナー意識（身だしなみ等）の向上を図る。	【遅刻指導】学年部と連携しながら多角的に指導し、余裕をもった登校を促す。 【あいさつ指導】全教職員で協力し、身だしなみを含め、日頃のあいさつが積極的にできる生徒に育てる。			

		携帯情報端末、特にSNSの利用などにおける情報モラルに関する規範意識を高める。			
	学校生活が安心、安全なものとなるよう、特に交通安全について意識の向上を図る。	交通事故を防止し、交通マナーの向上を進める啓発活動を継続的に行う。			
	「5K力」の育成のため、特別活動（生徒会活動・部活動・ボランティア活動）の活性化を図り、将来、地域社会を支える自覚と創造力を兼ね備えた使命感を持たせる。	生徒会執行部の活動を活発化させ、生徒が中心となる生徒会活動(特に福高祭)を充実させる。 多くの生徒がボランティアに参加できる機会を増やす。			
進路指導部	第1学年・第2学年次の進路意識を向上させる。	夢を抱いて頑張る生徒を育成する。 〔2学期実施の進路希望調査で、未定と回答する生徒の割合〕			
	生徒が希望進路の実現に向けて前向きな姿勢で歩み、自ら考え、行動する力を育てられるような進路指導を行う。	生徒一人一人の進路選択の可能性を広げるため、模擬試験の活用を充実させ、学習成果の向上と定着を図る。			
		第3学年部や教科担当者との連携を密にして生徒の希望進路実現を図る。			
保健部	生徒が健やかで安心・安全な学校生活を送ることができるよう、自らの健康や安全に対する意識の向上を図る。	健康で安全な学校生活を送ることができるよう、病気や怪我の予防に関する取組を積極的に行う。特に、メンタルヘルスに関する支援の充実、運動時及び部活動時の災害防止に努める。 定期的に「ほけんだより」「安全だより」を配信し、健康や安全に関する注意喚起を行う。 健康診断結果に基づく要治療・再検生徒の受診率の向上を目指す。			

	環境教育の充実を図り、校内美化に対する意識を高め、学習環境作りに努める。	校内の清掃を確実に行うとともに、校内美化に努める。 教室内環境に関心を持ち、感染症予防も含め換気の励行に努める。 CO2 モニターを用いた教室内の空気検査を実施する。			
人権教育部	様々な人権問題についての正しい理解や認識を深め、人権尊重の実践的態度を養う。	学年部や他分掌との連携を深め、人権学習の教材や指導方法の改善に努める。			
	各種援護制度の周知と活用を図り、就・修学の保障に努める。	援護制度について、広報や説明会を充実させる。			
	教職員の人権意識の高揚を図り、指導力の向上に努める。	教職員人権研修を充実させ、教職員の指導力の向上を図る。			
総務企画部	本校の特色ある取組や、生徒の充実した学校生活の様子を、地域の方や中学生、その保護者等に正しく知ってもらえるよう広報誌(福高だより、学校案内)やホームページ、Instagramによる情報発信、各種説明会を工夫し、実施する。また本校生徒・保護者に対しても同様に本校の取組等をこれまで以上に知ってもらうようホームページ、Instagram等の更新に努める。	在校生とその保護者に本校の活動の様子をよりよく知ってもらえるよう、分掌内外の連携を強化し、ホームページ等の媒体で積極的に情報発信することで広報に関する満足度を高める。			
		ホームページや広報誌(福高だより)、中学生対象の説明会等の広報に関わる様々な取組の内容をより充実させることで、本校の魅力を正しく知ってもらえるよう努め、本校全体の志願者の増加を目指す。			
みらい探究部	普通科の総合的な探究の時間「みらい考」について、学習計画、探究のサイクルを回し、「課題解決実践」を円滑に進め、その内容が進路実現に繋がる取組とする。	生徒が自ら社会や地域について課題を設定し、主体的に探究活動に取り組む中で、課題解決的な思考力・実行力を身につける。			

	文理科学科の総合的な探究の時間「みらい学」での研究活動の充実を図り、各研究活動を通して、時間管理能力や批判的思考力など研究活動に必要な力を向上させ、研究内容の充実・深化をはかる。	研究活動を計画的にすすめ、内容を深めるために、関係者や有識者と効果的につながり、科学的に思考・吟味し活用する力を育成する。			
	「みらい学」・「みらい考」、「ユリイカ・デー」、「F3!」などの取組を通して、学校全体の探究活動の活性化を図る。	各取組について、総合的な探究の時間を軸に教科や分掌と連携して計画・実施し、教員が能動的に探究活動に関わることができる体制を整える。			
図書 視聴覚部	読書活動を推進し、5つの力を基盤とした「知識に裏付けされた判断力」、「豊かな表現力」、「感性を磨く力」を育成する。	学年、分掌、教科と連携し、図書館活用之机を増やすとともに、活用内容の充実を図る。			
	P T A活動を推進し、保護者や府民の学校理解につなげる。	P T A活動が円滑に運営されるよう、事務局としての役割を果たす。P T A活動の様子が「わからない」と感じている保護者が多い実態をふまえ、「さくら連絡網」やInstagramを活用し、情報発信を積極的に行う。			
第1学年部	思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、基礎的な学力を身につけさせる。(感じる力、考える力)	清掃や整理整頓を心がけ、学習環境を整えさせつつ、家庭学習の習慣を早期に確立させる。 授業を大切にし、予習と復習のサイクルを確立させる。また、苦手教科の克服に取り組ませる。			
	自己理解を深め、自らの目標を立て、向上心を持って行動させる。(行動する力、向上する力)	読書習慣を身につけさせる。 個人面談を重視し、進路目標を明確にさせる。 部活動への積極的な参加を促す。			
	他者を思いやり、協働する態度を育てる。(関わる力)	あいさつを奨励し、日常的なマナーを身につけさせる。 学校行事や、クラスでの活動に積極的に参加させ、集団の中での自分の役割を見つけさせる。 常に相手の気持ちを考えて、他者に優しい行動を取らせる。			

第2学年部	学習に臨む姿勢をより充実させて、バランス良く学習に取り組む態度を育み、自らの可能性を上げさせる。 (5K力)	面談を重視し、生徒が受け身ではなく主体的でバランスの良い学習習慣を確立できるように支援する。 学習の大切な場である教室の美化に努め、学習環境をしっかりと整えさせる。			
	「挑戦・メリハリ」を意識しながら自ら考えて行動する態度を育み、充実した高校生活に繋げさせる。 (5K力)	日々の指導を通して、基本的な生活習慣やマナーを意識して行動できる力を身につけさせる。 ホームルーム活動や行事、部活動等への積極的な参加を促す。			
	他者を思いやる心を持って行動する態度を育む。 (5K力)	常に相手の気持ちを考えて、他者を思いやる行動を取らせる。 学校行事やホームルーム活動に積極的に参加させ、集団の中での自分の役割を果たさせる。			
第3学年部	思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、基礎的な学力を定着させる。 (感じる力、考える力)	自己の課題を認識させ、短期目標を設定させるなどして、苦手科目の克服に取り組ませる。			
	進路目標を明確に持たせ、希望進路の実現に向け主体的・計画的に行動させる。 (行動する力、向上する力)	生徒の面談に重点を置き進路意識の高揚を図る。 関係分掌や教科担当者との連携を密にして、進路検討会を充実させ、生徒の希望進路実現を図る。			
	他人を思いやり、協働する態度を育てる (関わる力)	学校生活の様々な場面で、他者と協働して取り組ませる。			
事務部	安心・安全な学校生活が送れるよう、施設・設備の維持管理を徹底する。	危機管理意識を持ち、危険箇所の早期発見・早期改修に努める。			
	学校経営方針の推進に、各分掌や教科等と連携し、効果的な予算執行を図る。	各分掌や教科等と連携を密にし、効果的な予算執行を行う。本校の教育推進に効果的な計画の立案、執行に努める。			
	丁寧かつ的確で迅速な窓口業務及び電話対応を行う。	保護者・府民との窓口となる対応を、丁寧かつ的確、迅速に行い、円滑な学校運営に努める			

国語科	学習指導要領に即した観点別評価への対応に取り組むとともに、ＩＣＴ機器の授業での有効活用に努める。	教科内での授業研究や学校外での研修会への参加を積極的に行い、以下の事項を推進する。 (1) ＩＣＴ機器の授業での有効活用 (2) 学習指導要領に即した教科指導力の向上 (3) 観点別評価への対応				
	生徒の言語文化に対する関心を深め、「知識・技能」の定着を図る。	「知識・技能」の定着を目指して、小テストや定期考査等に意欲的に取り組ませる。				
地歴公民科	生徒個々にあわせた希望進路を実現するために必要とされる学力を向上させ、社会的役割の自覚とともに、自立した学習習慣を確立させることに努める。	学習事項の基礎基本を確実に定着させ、生徒の学力の向上に努める。 生徒が主体的に物事を考察し、課題を発見できる教育を進める。				
	生徒の学習意欲を高めるため、教科内で連携をとり、各人が「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を実施できるように努める。また、観点別評価における「指導と評価の一体化」を推進する。	「主体的・対話的で深い学び」のための効果的な指導方法の確立に向けて研究授業を実施し、研究協議を行う。				
数学科	主体的な態度で粘り強く学習に励む生徒を育成し、希望進路に対応できる学力を養成する。	< 1 年生 > 学習状況の把握と丁寧な指導を行い、基礎学力の定着を図る。				
		< 2 年生 > 学習方法を指導することにより、個々の学習スタイルを確立させ、主体的に学習に励む生徒を育てる。				
		< 3 年生 > 日々の授業に加え、共通テスト対策演習やにじゼミ等により、希望進路実現に必要な学力を充実させる。				
	学習意欲を高める指導の工夫と改善を推進する。	ＩＣＴの活用についての交流を図る。				
理科	生徒の希望進路実現に向け、基礎学力を定着させるとともに、自然科学的な原理・現象と身近な日常生活	授業や個別指導を通して丁寧な学習指導を行い、基礎学力の定着を図る。また、講習やにじゼミを通して、大学入試に対応しうる学力を養う。				

	とを関連付けながら、思考力・観察力・分析力を養う。	教科指導及び情報管理等で情報端末を積極的に活用する。動画や画像などの資料を積極的に活用し、スライドや専門のアプリケーションを使用して視覚的な効果を意識し授業改善に努める。			
	対話的・体験的な実験の機会の確保や外部施設と連携を行い、自然科学に対する知的好奇心を養う。	物理・化学・生物の各領域における授業で生徒が主体となる実験の機会を増加させ、自然科学に対する課題解決能力や探究心を高める。また、生徒の活動に対するフィードバックを行い、指導と評価の一体化を図る。また、外部機関と積極的に連携を図り、全ての教員が探究活動に積極的に携わることで、探究内容の精度を高め高度な研究を行う。またＳＳＮ事業である「サイエンスフェスタ」等の発表に向けてきめ細かい指導を行う。			
保健体育科	＜主体的に学習に取り組む態度の育成＞ 体育授業や体育的行事により体力向上を目指すとともに、自身の体をどのように動かせば効率的にかつ技術的に向上するかを考え実践しようとする力を育成する。	体力の向上、身体技術の向上にむけて、自身の身のこなしや、他者との動きの違いに気づき、自身の課題解決への道筋を考え実践しようとする機会の多い授業を展開する。			
	＜学習指導要領に即した授業改善＞ 積極的にＩＣＴを活用するなど、効果的な授業方法を検討し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指す。	それぞれが行った改善点について科内で共有し、目指す力の育成に効果的な授業方法について検討する。			
	＜運動部活動の活性化＞ 部活動を通して自己管理能力の育成を図るとともに、責任感、連帯感の涵養、好ましい人間関係の育成し、自己肯定感を高める。また、各部活動間の交流を推進し、積極的に物事に取り組む姿勢を学校全体に広げていく。	福知山高校運動部としての意識を高め、日常生活において挨拶や礼儀等を身に付けるなど、他の模範となる質の高い集団となるよう働きかける。			

芸術科	芸術に関わる幅広い活動を通し、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てると共に、感性を高め芸術の諸能力や技能を伸ばし、芸術文化に対する理解を深め、豊かな情操を養う。	〈音楽〉音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽・音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。				
		〈美術〉鑑賞・表現の授業において、見方や感じ方を深め、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。				
		〈書道〉主体的・対話的で深い学びの中から、本校が目指す生徒像を目標に、生徒の育成が推進できるよう授業改善に努める。授業内容と指導方法の改善により生徒の達成感を高める取組を推進する。				
英語科	多様かつハイレベルな進路希望に対応できる基礎から応用までの幅広い学力を養成する。	家庭学習指導の徹底、課題への取組、模試の復習を通じて、学力の向上を図る。				
	「主体的、対話的で深い学び」の視点に立ち、生徒の確かな学力を育むための授業改善に取り組む。	生成A IやI C T機器を利用したより効果的な指導を実現するため、教科内で一致して研修を進める。				
家庭科	実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に生活を創造する資質・能力を育成する指導の工夫改善を図る。	授業ごとのねらいを明確にし、実習等の実践的・体験的な活動や問題解決的な学習の充実を図り、福高の5 K力及び、自らみらいを創造する力がついたと実感できる授業を行う。				
		「子育て学習プログラム」の実施を通して、生徒の出産・子育て・人生設計について、生徒の変容が見られる授業の工夫を行う。				
情報科	情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度、課題や目的に応じた情報手段の適切な活用ができる能力を養うとともに、受け手の状況などを踏まえた発信、伝達社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解させる。	「情報社会の問題解決」、「コミュニケーションと情報デザイン」、「コンピュータとプログラミング」、「情報通信ネットワークとデータの活用」の4単元をバランス良く指導し、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。				

学校関係者 評価委員会 による評価	
-------------------------	--

次 年 度 に 向けた改善 の 方 向 性	
-----------------------------	--